

第5回中学校区学園化構想第2ステージ検討委員会 議事録 概要版

日 時	平成28年12月 2 日 (金) 15:00 ～ 17:00
場 所	掛川市教育委員会 会議室
内 容	
<p>1 開 会</p> <p>2 教育長あいさつ</p> <p>3 委員長あいさつ</p> <p>4 第4回議事録の確認</p> <p>5 協議事項</p> <p>(1) 報告書案について</p> <p>ア 1～3番について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まち協と福祉委員会の役員5、6人に聞いてみたが、地域住民は非常に高い関心を持っている。一貫教育を進めていかなければならないことは理解できるが、具体的にどうなるのかという意見に集中した。丁寧に説明をしていかなければならない。</li> <li>・地域によって、北も南も、歴史も違うので、現状を踏まえて、できる地域から実行する方がよい。</li> <li>・せっかくある施設の何が問題なのか、今使っている施設をどうしてそうするのか。現状で何がいけないのか。南部のこども園だけで60億かかると言われているが、校舎建築の財政上の問題は大丈夫なのか。予算上の見通しを明確にしておきたい。</li> <li>・通学の問題。今の児童生徒では、通学距離がどのくらいあるのか調査しておきたい。</li> <li>・地域での会合も回数を多くやっていかなければならない。</li> <li>・保幼と小中の一貫性について、高校まで含めた学校の縦の関係について、整備の在り方を考えていきたい。</li> <li>・11～14ページの委員意見は、様々な意見が箇条書きになってまとめにくいということもあり、4番に反映されているため、無くてよいかもしれない。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 委員長と事務局で協議し、委員の意見をもとに作成した報告書となるよう、意図的に多く掲載した。(事前に説明して了承済)</li> </ul> </li> <li>・11P「小規模校のデメリットをすごく感じる。」、12P「小中一貫教育を検討していく必要性を改めて感じる」の文章だけがあると違和感がある。何をもってそうのか明確にしたい。前後の文章にも書いてあるが修正したい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 表現を気をつけたい。事務局で違和感のある表現を出して加筆する。ただ、3番にあるような厚みのある議論をした上での4番があるので掲載はする。多少特異な意見や小さな声であっても入っていて良いのではないかな。</li> </ul> </li> <li>・報告書は、誰が誰に向かって言っているのか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 外部組織が市教委及び市民に出す。</li> <li>→ そうならば、報告書のタイトルは「報告書」でよいのではないかな。</li> <li>→ タイトルは報告書に変更する。サブタイトルを「子どもたちの未来を～」とつける。</li> <li>→ そのかわり、タイトル案は、市教委が今後一般市民に出す冊子等に使えば良い。</li> </ul> </li> <li>・なかなか理解が難しい部分もあるが、今後地域で議論していく際のバイブルになってほしい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 抽象的などころもあり、事務局が素案を作成しているため、若干市の施策みたいなものが入っていることは事実である。そこは、語尾に注意して修正を図る。</li> <li>→ これから地域に説明していく上で、必要ならば掲載しておいて良いと思う。</li> </ul> </li> <li>・1番と2番が逆の場合が一般的だが、これまでの話を聞いて、それもありがたしと納得</li> </ul>	

した。

- ・ 10P (6)「これまでの検討結果」において、大東町が中学校2つを1つにつずるとして  
いるが、私たちは、学園化を基盤として考えている。ここには「2つの答申を踏まえ  
た上で」と書いてある。中学校区は変えずにと考えているがそこはどうか。
  - 過去の検討委員会の方向性に必ずしも従わなくてはならないということはない  
と思う。約10年前に検討したときと状況が変わってきている。
  - 文章的には、経緯として述べるのみに留める。
- ・ 中学校の数を増やす議論をしなくてよいか。中学校に単学級はあるか。
  - 今は35人学級が適用され、2学級になっている。
  - 本委員会は、市教委の依頼で開かれ、学園化は堅持するという方向で話を始め  
ている。もし、将来的にこれを崩さなければならない状況になった場合は、あ  
らためて委員会を立ち上げて議論していくことになると思う。
- ・ 11P (7)「学校施設の老朽化」について、市の財源や維持費を考えると、現状と同  
じ状態で校舎等を維持することはできないことの根拠をはっきりしたい。数字的に明  
らかにしたい。
  - 根拠を示せるところは、できる限り示していく。
- ・ 5Pにある委員会の検討事項3つと11Pの項目について、中身はリンクしているが項目  
が違う。
  - 教育アクションゾーンの言葉については、市の施策からきている。設置要綱に  
かかっている3つの点について、それぞれバラバラに検討しても深まりを出すこ  
とが難しいため、全体を含めた上で11Pにあるような形で3つのものを分散さ  
せて議論している。
  - 原案でよい。
- ・ 7Pの「義務教育学校の制度化」について御意見をいただきたい。
  - 原案の通りで良い。

#### イ 4番及び添付資料について

- ・ 17P③「自治会」を「まちづくり協議会」に変更した方がよい。
  - 変更する。
- ・ 5Pにあるように「連携」はなめらかな接続、「一貫」は9年間を見通した系統的な教  
育である。保幼小中連携がメインの第1ステージから「一貫」という第2ステージに  
進もうとしている。小中一貫教育の推進にはソフトとハードがある。ソフトにかかる  
一貫とは、15P～16Pに書かれている9年間を見通した教育の中身である。ハードにか  
かる一貫とは、バス通学や施設をどうするかという議論になる。地域によって違うの  
で、そう簡単にいかないが、できることからやっていく。
- ・ 保幼から小中へ上がっていくときに、児童生徒の人数は変わらない。現状で人数が減  
っている中で、学園でまとめるのが最善である。財政的にも無駄が無いと感じる。
- ・ 報告書の内容はわかりやすくできているが、市教委から地域へ向けてたときに、もう  
少し分かりやすくできたらいいなと感じる。難しい言葉ではなくて、みなさんが使っ  
ている言葉で説明したい。
- ・ 報告書について、よく読んでくれれば分かりやすいが、一般の方がそこまで読むかど  
うかわからない。一般の方に向けて説明するとき、わかりやすく説明したい。
  - 正確な言葉を使わなければならない面もあるので、そのバランスが難しい。
- ・ 報告書はそのまま、これとは別に解説書みたいなものがあるとよい。
- ・ これをそのまま地域にも使うのか。これは教育委員会に出すものであるなので、今後地  
域へ具体的な説明していくときには、これとは別にパンフレットを作って説明する方  
がよい。
  - 地域にも説明する際には、かみ砕いて説明することは必要である。しかし、簡易  
なものだけではなく、詳しい報告書がバックボーンとして必要である。
- ・ 保幼小中の「保幼」が入っており、保幼から中学校卒業まで考えているのが掛川市の

特徴である。

- 普通は義務教育の枠で考えるのが一般的だが、保幼まで意識しながら議論していきたい。
- ・ 20Pのフロー図の右側にある「学園ごとに新たな学園づくり地域検討部会」と「新たな学園づくり庁内合同検討部会」を縦長の四角にする。
- ・ 学園ごとにやっていく地域検討部会を、もう少し強調したい。
  - 相互に連携しあい、同時並行でやっていく図に修正する。
- ・ 実際には9つの学園だけでやっているわけではなく、まちづくり協議会も深く関わっている。まちづくり協議会にも事務局サイドで連携を図ってほしい。
  - 当然、まちづくり協議会にも入ってもらわないといけないと考えている。
- ・ 20Pのフロー図について、こういう形でいくんだというふうに思われると苦しくなるので、断定しない形にしたい。
  - 「フロー図」は「想定される今後の流れ」とする。

#### ウ 別添資料（武井委員長作成）の案について

- ・ 委員長らしい先を見通した興味深いスライドであった。パワーポイントで作成した案であるため、報告書への掲載の仕方によってはわかりにくいかもしれない。
  - 文章化して、報告書に掲載する形に修正する。
- ・ 今はアクティブラーニングと言われており、その力を身につけさせて小学校に旅立たせていくためには、この形になれば理想的な教育である。しかし、実際に運営方法はどうか。幼保の部分の改革が先に決まっているので、現状では難しい。また、公立同士でないと難しい。
- ・ こういう学校があれば、人が帰ってくる。実際に、実家の横に新築して地元に戻ってくる家族がいる。斬新な案をもう少し前から知りたかった。掛川らしさがある、掛川ってすごいと思ってくれる形にできたのではないかと感じた。
- ・ 案としてはよいと思うが、これを出したときに行政サイドはどうか。
  - 事務局サイドからも、興味深い内容である。幼保は民間にやってもらう方向であり、維持管理費も削減できる。インパクトが強い案であるため、進めている施策と逆行する方向に思われる懸念もあるが、いくつかの部局にまたがる話であり、今後の議論の材料にしていきたい。
- ・ 掛川市は人口増を打ち出しているが、具体的にどうやって増やしていくと考えているのか。こういう案も議論して良いのではないか。外部委員会であるので、最大限に可能性のある案を作って出したい。
- ・ 委員長試案なので、掲載するかは事務局で判断してくればよい。
- ・ 栃木県佐野市の社会教育委員長と話した際、どんどん統廃合が行われているが、社会教育委員会では廃校になった跡地をどう使うか検討している。跡地にも、地域の新しい太陽ができるようにしたい。
  - 跡地を同じように市が管理するのではなく、地域や民間に委ねる方向性である。管理に必要な予算を、他のことに使っていかなければならない。
- ・ 現実問題として実現できるかは、もう少し前に出ていれば良かったが、現状の方向性と2重になり、トラブルに発展する可能性があるので、慎重に取り扱いたい。
- ・ 次回を最終回として考える。報告書案についてはできる限り事前に送付する。

#### 6 連絡事項

第6回 平成29年1月27日（金）午後3時から 市教委2階会議室

#### 7 閉会